

## 富士紀行（8） 富士登山(その2)

富士学校は陸上自衛隊幹部の約4割を占める普通科、特科、機甲科職種の幹部に対する教育を行う機関である。その教育のために、多数の教官を擁し、教育を支える要員、支援する部隊等から構成されている。教官が直接学生に対する教育・訓練を担当しているが、最高のそして真の教育者は、或いは富士山そのものであろう。

### ● 小生の富士登山記

今を去る30年前、小生が富士学校の幹部初級課程の学生であった当時のある土曜日のこと、夕食を同期連中と採っていたとき誰が言うともなく、これから御山に登ろうかと言うことになった。記憶が定かでないが確か数人が同心して6時か7時頃から学校から登り始めた。無謀と言えば無謀でる。

当時の須走登山道は今と違いかなり荒れていたような気がする。体力には自信のあった悪童連中ではあったが、総行程約14Km、最大斜度は何度あるのか解らないが、流石にきつかった。途中で寒さに震えながらも若干の休憩仮眠をとって、五合目に到着。それから一般登山者を追い越すことで若さをアピールしつつ一路山頂を目指した。「こんばんわ(にちわ)」「頑張ってください。」時折行き交う下山者の暖かい励ましの声に勇気づけられながら、一步一步確かな歩みを進めた。近年登山者同士のそのような所謂「山の挨拶」が少なくなっていると言う。下界でも日常の挨拶が少なくなっているけれども、其れが遂に山男・女にまで拡散されたのだろうか。よき日本の伝統が希薄になりつつあるのではなからうか。

蛇足ついでに、登山のレジャー化に伴い、ゴミや屎尿の処理が問題になっているという。世界に誇るべき山であったはずの富士山を世界文化遺産に登録するのも憚られ、外国の方を登山にお連れしたくないと思っている識者も多いと聞く。どうしてこのような日本になってしまったのだろうか。どうすべきなのだろうか。己の問題として考えるときがきている。入山規制は最後の手段だし、其れを採らずして富士山が再生して欲しいものだ。

(閑話休題)

富士駐屯地曹友会が「富士山一斉須走登山口清掃」に参加しているのを御存知だろうか。今年で21回目になる一斉清掃に分会長クラスの約20名が須走地区の各団体と共にクリーン作戦に参加して、好評を博している。富士曹友会は「砂払い5合目」を担当している。

嘗ては、部隊規模でクリーン作戦に参加していたが、今はこのような形での参加である。

また、100年掛けて富士山を緑に戻す運動への協力として、富士駐屯地曹友会は須走登山道新5合目の駐車場にアザミの植栽を実施している。

登山道の閉山の後須走の子供会が登山道の清掃を実施している。このとき、父親たる自衛官も参加している。曹友会が豚汁の炊き出しをしている。

(閑話休題終わり)

御来光を拝まずして何の登山かとの思いであった。遠く駿河湾を望む方向は一面の雲海であったが、その雲海が赤みを帯びてきたと見る間に其れを突き抜けるように旭日が

顔を出した。御来光である。我々は思わず拍手を打ち、恋人をはじめとする近親者に幸多かれ、国家が安寧ならんことを無心になって祈ったものであった。

お鉢巡りを済ませた我々は、勇躍帰路に就いたのであるが、7合目からは砂走りを駆け下りた。と言うより、三段跳びにも似たジャンプをしつつ降りたと言うべきだろ。登りが8～9時間かかったとすれば下りは3時間ぐらいで学校に着いたのではなかろうか。半長靴が砂で傷だらけになったので後々手入れが大変だった。

小生が普通科部の訓練教官をしていた頃は三尉候補者課程の卒業、任官の前祝いを兼ねて、幹部初級課程学生も必ず富士に登山したものである。不思議なもので、一度経験していること及び教官として登山すると楽なものだ。ある課程の時には山頂浅間神社奥宮に銃剣道の試合を奉納したものだ。

最近では課程教育の中で、正規の教育の一環として富士登山を取り入れているのは特科部の幹部初級課程約100名、機甲科部の幹部初級課程の約50名である。勿論入校学生や教導団等の隊員有志が相集い登山するケースは多い。

須走登山道について（砂走りが楽しめる人気の下山ルート）

東口登山道で、富士浅間神社前から裏鳥居を出たところを起点とし、頂上久須志神社まで約3里半の行程。途中森林地帯及び岩盤を登り、5口登山道中最も登りやすく、昔から夫人子供にも適する登山道と言われた。

開通は天正年間と伝えられ、これも最古の口とされる。昔は丁場石があった。昔から、江戸、関東方面からの便道で、白衣の富士講員が多数登り、江戸方面には富士浅間神社の分霊が祀られた。登山道には境外末社、御室浅間神社、古御岳神社、胎内神社、迎久須志之神社が祀られてあり、女人禁制の頃は女性は、御室浅間神社以上には上れなかった。迎久須志之神社は、今は独立神社で、これより上が胸突き八丁で頂上がすぐそこに見えるが葛折りの砂礫道をあえぎあえぎ登らなければならない。下山道は頂上から一路新五合目まで砂走りを下り五合目でバスに乗れる。

新五合目までは、舗装された富士あざみラインを車で上っていける。無料なのが嬉しい。須走及び御殿場から登山バスが新五合目まで運行（須走から40分）されている。山小屋は13軒と充実している。このコースの醍醐味は下りの砂走りであろう。1歩3はとか

（閑話休題）

砂走りの砂が無くならいかと心配する向きもあるかと思うが、夜の内に帰っていくのだそうである。（と言う言い伝えがあるそうな。）

（閑話休題終わり）

古御岳神社の前から古富士へのハイキングもお奨めである。一時間で往復できる。クルマユリ、タケシマラン、ツバメオモト等希少な植物も多く、絶好な自然観察コースとパンフレットには記載してある。

8合目で吉田口・河口湖口と合流する。砂走りは7合目からである。

所要時間 登り5時間 下り2時間30分